

～令和5年度「教員による自己評価アンケート」集計結果～

本校では学則第26条「自己点検および評価」に基づき、各専任教員の教育能力の向上にむけた取り組みの一環として教員による自己評価アンケートを実施しています。今年度は下記要領に基づき実施しました。

1. アンケートの目的と調査対象

目的：担当した授業を振り返ることで課題と成果を明らかにし授業改善に役立てる。

対象：専任教員が担当している授業（講義・技術演習・臨地実習）。

2. アンケートの種類と回答方法

種類：「講義」・「技術演習」・「臨地実習」の3種

回答方法：紙面への記述形式とする。4段階尺度による評価（4：とてもそう思う、3：そう思う、2：そう思わない、1：全くそう思わない）および所感・総括等の記述。

3. アンケートの実施方法

- 原則として、終講後（臨地実習の場合は指導担当のクール終了後）に担当教員がアンケート用紙に記載する。
- アンケートは記名式とし副校長に提出する。

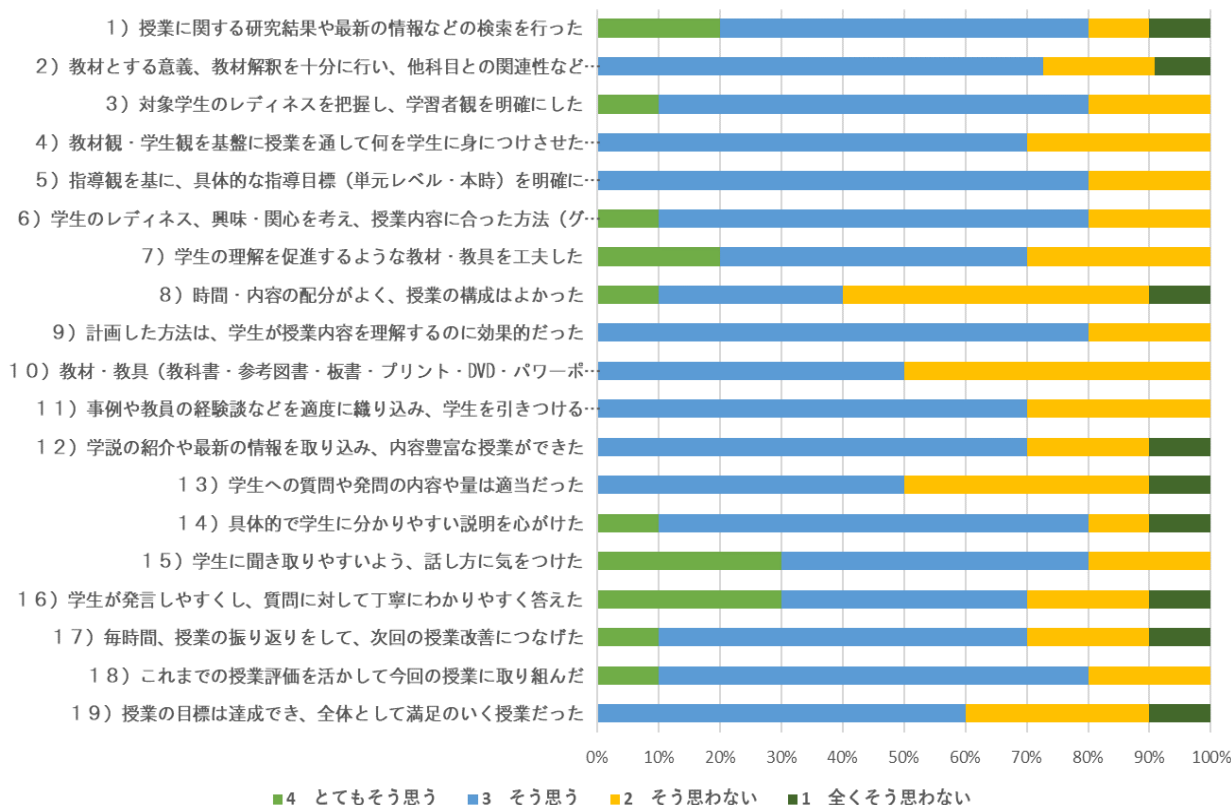
4. 集計結果（2024・4・10集計）

①「講義」の自己評価アンケート集計結果

今回集計対象とした講義は以下のとおり。

- 基礎看護学：看護研究の基礎、与薬に伴う援助技術
- 地域・在宅看護論：地域・在宅看護概論、地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- 成人看護学：成人看護学概論
- 老年看護学：老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ
- 母性看護学：母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅱ
- 領域横断授業：看護を展開する思考技術、健康回復を支援する看護、地域で暮らす人々への看護、健康回復を支える看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、終末期を生きる人々への看護、病気を診る演習

教員による自己評価－講義	平均値
1) 授業に関する研究結果や最新の情報などの検索を行った	3.1
2) 教材とする意義、教材解釈を十分に行い、他科目との関連性などから内容を精選し、教材観を明確にした	2.8
3) 対象学生のレディネスを把握し、学習者観を明確にした	2.7
4) 教材観・学生観を基盤に授業を通して何を学生に身につけさせたいか指導観を明確にした	2.9
5) 指導観を基に、具体的な指導目標（単元レベル・本時）を明確にして授業計画を立案した	2.8
6) 学生のレディネス、興味・関心を考え、授業内容に合った方法（グループワーク、ロールプレイ等）を選択した	2.9
7) 学生の理解を促進するような教材・教具を工夫した	3.0
8) 時間・内容の配分がよく、授業の構成はよかった	2.4
9) 計画した方法は、学生が授業内容を理解するのに効果的だった	2.7
10) 教材・教具（教科書・参考図書・板書・プリント・DVD・パワーポイント・模型など）の使い方は効果的であった	2.5
11) 事例や教員の経験談などを適度に織り込み、学生を引きつける授業ができた	2.7
12) 学説の紹介や最新の情報を取り込み、内容豊富な授業ができた	2.6
13) 学生への質問や発問の内容や量は適当だった	3.1
14) 具体的で学生に分かりやすい説明を心がけた	3.3
15) 学生に聞き取りやすいよう、話し方に気をつけた	3.0
16) 学生が発言しやすくし、質問に対して丁寧にわかりやすく答えた	3.1
17) 毎時間、授業の振り返りをして、次回の授業改善につなげた	3.0
18) これまでの授業評価を活かして今回の授業に取り組んだ	3.0
19) 授業の目標は達成でき、全体として満足のいく授業だった	2.8
<評価項目の平均>	2.9

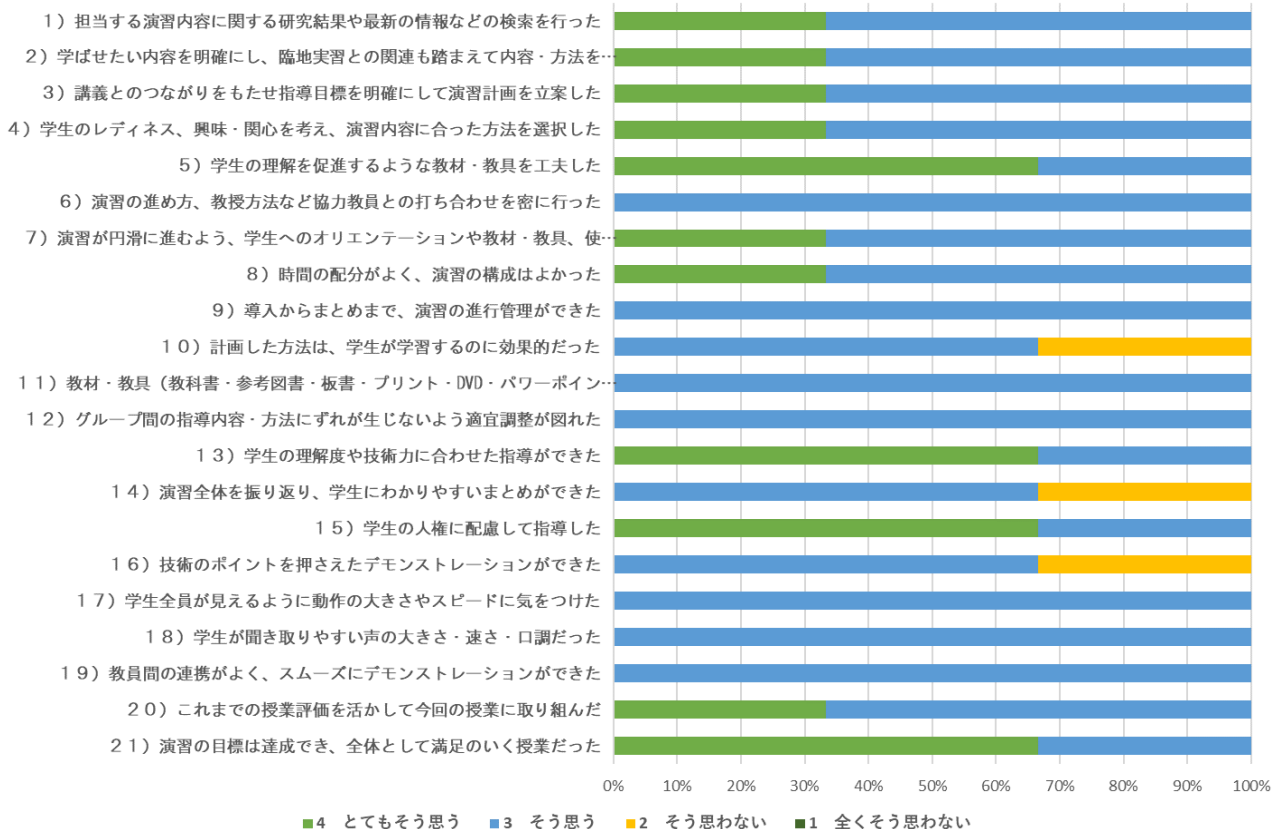


②「技術演習」の自己評価アンケート集計結果

今回集計対象とした講義は以下のとおり。

- 基礎看護学：共通基本技術、与薬の技術、治療・処置・検査に伴う援助技術

教員による自己評価－技術演習	平均値
1) 担当する演習内容に関する研究結果や最新の情報などの検索を行った	3.3
2) 学ばせたい内容を明確にし、臨地実習との関連も踏まえて内容・方法を精選した	3.3
3) 講義とのつながりをもたせ指導目標を明確にして演習計画を立案した	3.3
4) 学生のレディネス、興味・関心を考え、演習内容に合った方法を選択した	3.3
5) 学生の理解を促進するような教材・教具を工夫した	4.0
6) 演習の進め方、教授方法など協力教員との打ち合わせを密に行った	3.0
7) 演習が円滑に進むよう、学生へのオリエンテーションや教材・教具、使用教室の準備ができた	3.3
8) 時間の配分がよく、演習の構成はよかった	3.3
9) 導入からまとめまで、演習の進行管理ができた	3.0
10) 計画した方法は、学生が学習するのに効果的だった	2.7
11) 教材・教具（教科書・参考図書・板書・プリント・DVD・パワーポイント・模型など）の使い方は効果的だった	3.0
12) グループ間の指導内容・方法にずれが生じないよう適宜調整が図れた	3.0
13) 学生の理解度や技術力に合わせた指導ができた	3.7
14) 演習全体を振り返り、学生にわかりやすいまとめができた	2.7
15) 学生の人權に配慮して指導した	3.6
16) 技術のポイントを押さえたデモンストレーションができた	2.6
17) 学生全員が見えるように動作の大きさやスピードに気をつけた	3.0
18) 学生が聞き取りやすい声の大きさ・速さ・口調だった	3.0
19) 教員間の連携がよく、スムーズにデモンストレーションができた	3.0
20) これまでの授業評価を活かして今回の授業に取り組んだ	3.3
21) 演習の目標は達成でき、全体として満足いく授業だった	2.6
<評価項目の平均>	3.1

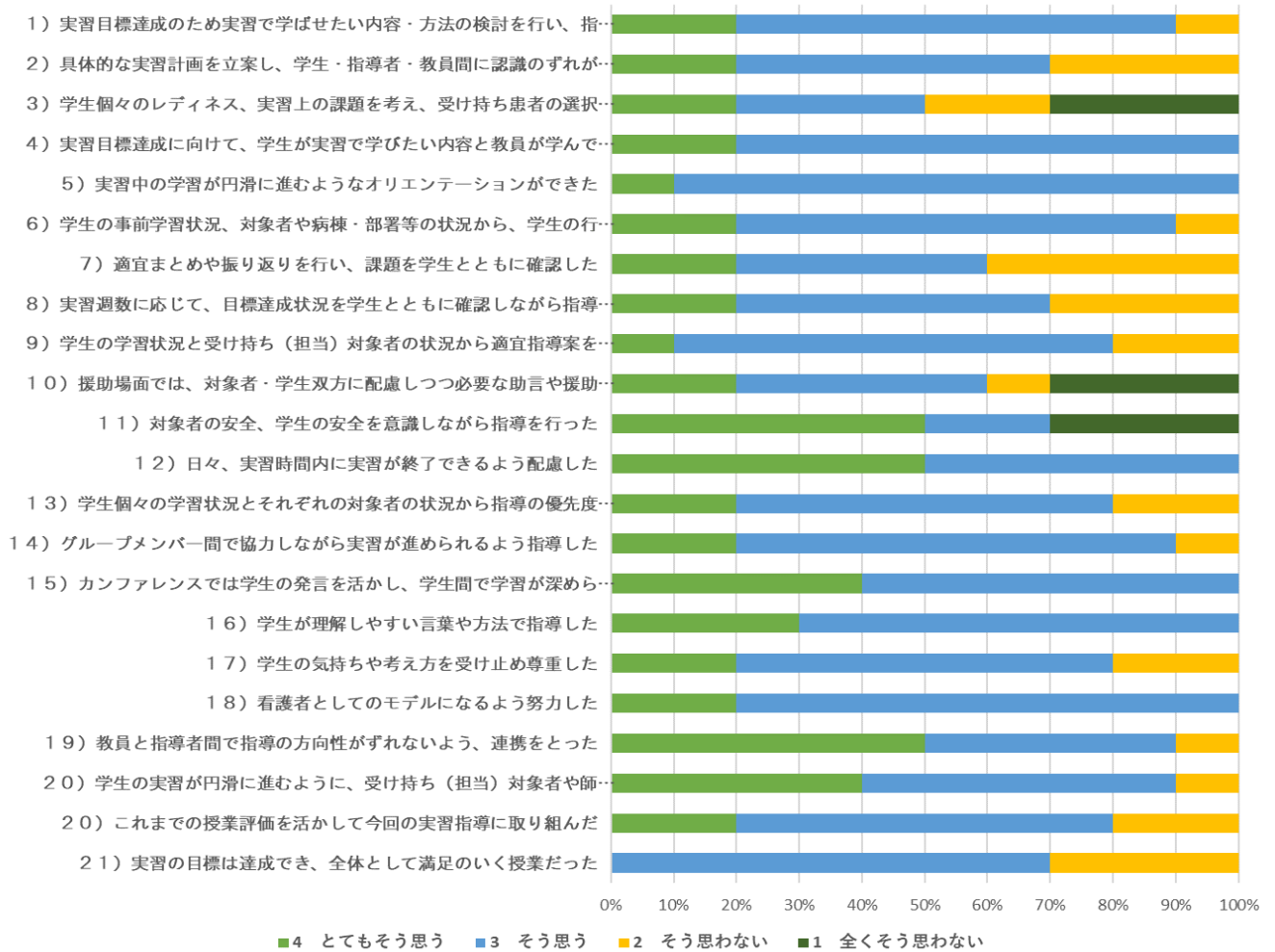


③「臨地実習」の自己評価アンケート集計結果

今回集計対象とした講義は以下のとおり。

- 基礎看護学：日常生活を支援する実習
- 地域・在宅看護論：在宅看護論実習
- 成人看護学：セルフケア支援実習、成人看護学実習Ⅱ
- 母性看護学：母性看護学実習
- 精神看護学：精神看護学実習

教員による自己評価－臨地実習	平均値
1) 実習目標達成のため実習で学ばせたい内容・方法の検討を行い、指導者との調整を行った	2.9
2) 具体的な実習計画を立案し、学生・指導者・教員間に認識のずれがないよう提示・調整した	2.5
3) 学生個々のレディネス、実習上の課題を考え、受け持ち患者の選択を行った	2.3
4) 実習目標達成に向けて、学生が実習で学びたい内容と教員が学んでほしい内容との確認を行った	3.0
5) 実習中の学習が円滑に進むようなオリエンテーションができた	2.9
6) 学生の事前学習状況、対象者や病棟・部署等の状況から、学生の行動計画が適切か判断し指導した	2.7
7) 適宜まとめや振り返りを行い、課題を学生とともに確認した	2.8
8) 実習週数に応じて、目標達成状況を学生とともに確認しながら指導を進めた	2.9
9) 学生の学習状況と受け持ち（担当）対象者の状況から適宜指導案を修正し、学習の積み重ねができるよう指導した	2.6
10) 援助場面では、対象者・学生双方に配慮しつつ必要な助言や援助協力をした	2.5
11) 対象者の安全、学生の安全を意識しながら指導を行った	2.9
12) 日々、実習時間内に実習が終了できるよう配慮した	3.5
13) 学生個々の学習状況とそれぞれの対象者の状況から指導の優先度や指導の時機を決定した	3.0
14) グループメンバー間で協力しながら実習が進められるよう指導した	3.1
15) カンファレンスでは学生の発言を活かし、学生間で学習が深められるような指導・助言をした	3.3
16) 学生が理解しやすい言葉や方法で指導した	3.3
17) 学生の気持ちや考え方を受け止め尊重した	3.0
18) 看護者としてのモデルになるよう努力した	3.3
19) 教員と指導者間で指導の方向性がずれないように、連携をとった	3.4
20) 学生の実習が円滑に進むように、受け持ち（担当）対象者や師長、指導者等と適宜調整をした	3.3
20) これまでの授業評価を活かして今回の実習指導に取り組んだ	3.0
21) 実習の目標は達成でき、全体として満足のいく授業だった	2.7
＜評価項目の平均＞	3.1



2024・4・10

副学校長 渡會睦美

